

令和4年度

山形県発掘調査速報会



令和5年3月5日（日）13:00～16:00

山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール

【主催】山形県・公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

【共催】山形市・米沢市教育委員会・南陽市教育委員会・高畠町教育委員会

令和4年度 山形県発掘調査速報会

主催 山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
共催 山形市 米沢市教育委員会 南陽市教育委員会 高畠町教育委員会
日時 令和5年3月5日(日) 13:00～
会場 山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール

- 12:00 開場
13:00 開催挨拶
13:10 令和4年度の県内の発掘調査の概要について(山形県)
13:25 報告① 史跡山形城(山形市)
13:45 報告② 鶴ヶ岡城跡
(山形県埋蔵文化財センター)
14:15 報告③ 北向遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
14:35 休憩
14:50 報告④ 台ノ上遺跡(米沢市教育委員会)
15:10 報告⑤ 長岡南森遺跡
(南陽市教育委員会)
15:30 報告⑥ 大在家遺跡
(高畠町教育委員会)
16:00 閉会



遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起因事業
史跡山形城跡(本丸北堀土塁跡)		山形市	城館跡	中世・近世	1,400㎡	5月11日～ 11月30日	史跡山形城跡整備事業(文化庁補助事業)
鶴ヶ岡城跡	第3次	鶴岡市	城館跡	近世	300㎡	6月1日～ 8月31日	山形県立庄内中高一貫校(仮称)整備事業
鶴ヶ岡城跡	第4次	鶴岡市	城館跡	近世	153㎡	5月26日～ 10月31日	街路整備事業(防災・安全交付金)3・6・1号道形黄金線
北向遺跡	第3次	山形市	集落跡	奈良・平安	3,560㎡	5月18日～ 10月28日	一般県道東山七浦線改良事業
台ノ上遺跡	第16次 第17次	米沢市	集落跡	縄文	96㎡ 78㎡	3月22日～ 4月18日 4月25日～ 5月20日	個人住宅建築工事
長岡南森遺跡	第5次	南陽市	集落跡ほか	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安・中世	152.5㎡	5月11日～ 7月19日	保存目的確認事業
大在家遺跡	第22次	高畠町	集落跡	飛鳥・奈良・平安	2,154㎡	5月11日～ 9月9日	宅地造成事業等に伴う発掘調査
史跡館山城跡		米沢市	城館跡	中世・近世	22㎡	6月1日～ 7月27日	保存・整備目的の内容確認調査
史跡慈恩寺旧境内	第3次	寒河江市	社寺跡	中世・近世	6.72㎡	7月22日～ 7月27日	看板設置等にかかる発掘調査
上本町遺跡	第1次	酒田市	倉庫跡	近世・近代	520㎡	10月3日～ 10月28日	店舗建設および駐車場整備工事
水林下遺跡	第3次	遊佐町	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	2,346㎡	6月23日～ 9月9日	一般国道7号遊佐象潟道路建設事業
原の内A遺跡	第4次	尾花沢市	集落跡	縄文	690㎡	10月3日～ 11月30日	農地整備事業(経営育成型)鶴子六沢地区
山形城三の丸跡	第23次	山形市	城館跡 集落跡	奈良・平安・中世・近世	1,250㎡	5月17日～ 11月25日	山形広域都市計画道路事業3・2・5旅籠町八日町線

山形城跡本丸北堀土塁跡の北東隅部の調査を行いました。本丸北堀地区通算第6次調査で、北堀跡900㎡及び土塁跡500㎡の計1,400㎡が調査区です。

本丸北堀北東隅部では南北・東西トレンチ断面で堀の位置を確認しています。現地表面から堀底までの深さは約5mありました。堀底から鯰(しゃち)瓦が1点出土しました。顔から胴体の一部にかけて最大長約50cmあります。胸元のヒレが一体造形されており、これまで出土した鯰瓦とは意匠が異なります。江戸後期から幕末の時期に相当します。

北堀調査区南部には、極めて大量の瓦捨て場が発見されました。一部のみ取り上げましたが、幅1mの範囲に約300kgの瓦が捨てられていた計算です。ここは本丸北土塁の北東隅部にあたり、かつて土塁上には「本丸艮櫓(うしとらやぐら)」が推定されます。出土瓦はこの櫓に使用されたものと推測しています。

本丸北土塁跡からは「土塁中段石積遺構」が発見されました。これは最上氏時代の山形城の遺構で、堀に面して築かれたと推定しています。その上面には金箔瓦を含む最上氏時代の遺物が見つかり、本丸御殿跡と共通した遺物の広がりがあったと考えられます。

(五十嵐貴久)



瓦捨て場俯瞰



黒鯰瓦出土状況

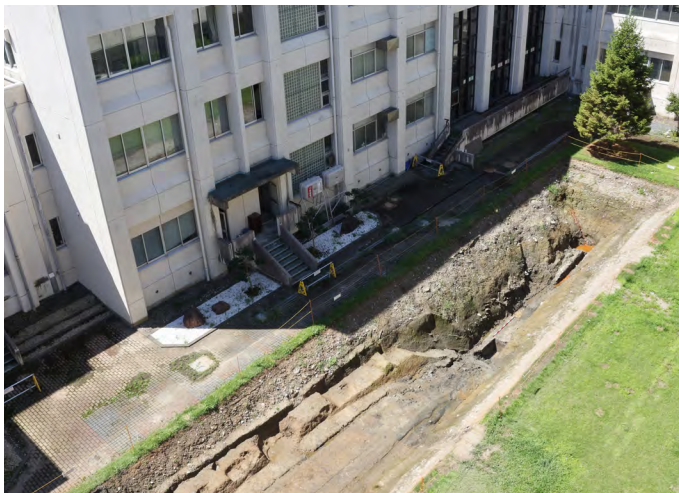


土塁中段石積遺構

鶴ヶ岡城は中世には大宝寺城と呼ばれ、室町時代初期頃に武藤氏によって築かれたとされています。戦国時代に武藤氏が滅ぶと、庄内地方は上杉氏、その後は最上氏の支配下となり、慶長8年(1603)には鶴ヶ岡城と名を改められました。元和8年(1622)、最上氏の改易後に酒井氏が入部し、鶴ヶ岡城を居城としました。

第3次の調査区は、鶴ヶ岡城二の丸の北に位置する「七ツ蔵」と呼ばれた庄内藩の米蔵があった地区にあたります。七ツ蔵は寛永元年(1624)にこの地に置かれ、明治6年(1873)に取り壊されました。その後は学校用地となり、明治33年(1900)には堀が埋め立てられました。現在は山形県立鶴岡南高等学校の敷地となっています。

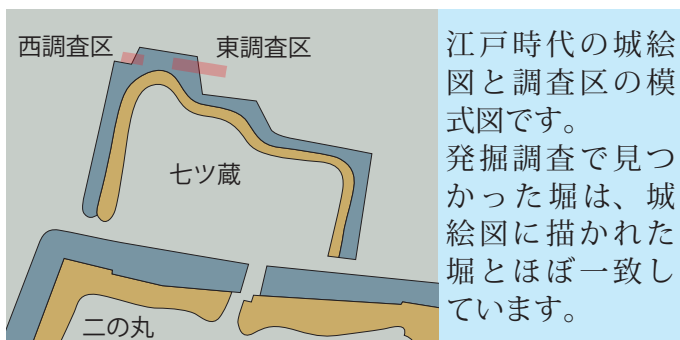
調査区は学校の渡り廊下を挟んで東と西に分かれます。東西の調査区から七ツ蔵の堀が見つかりました。西調査区で堀の西岸、東調査区で東岸が確認されています。東岸から西岸までの長さは約47m、現地表からの深さ約3.5mです。七ツ蔵を囲む堀の北端部にあたると考えられます。堀岸に杭や石垣等の護岸施設は見つかりませんでした。



東調査区で見つかった堀です。堀の東側(写真左下)は近代の溝によって壊されていました。

堀の西側では井戸や溝が見つかりました。溝の底面からは江戸時代以前の中世の遺物が出土しています。

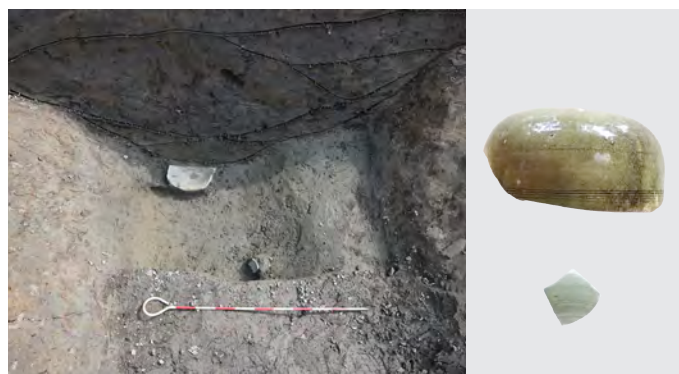
120年以上前に埋め立てられ、正確な位置や規模が不明となっていた七ツ蔵の堀の一部を発掘調査で初めて確認することができました。また、酒井氏や最上氏以前の大宝寺城に関連する中世の遺跡の広がりが明らかになってきました。(高桑登)



江戸時代の城絵図と調査区の模式図です。発掘調査で見つかった堀は、城絵図に描かれた堀とほぼ一致しています。



西調査区で見つかった堀です。堀の西側(写真左)で南北に走る中世の溝が見つかりました。



中世の溝の底面から15世紀頃の古瀬戸瓶子(上)と青磁碗(下)が出土しました。

鶴ヶ岡城跡第4次は、県の道路改良工事に伴う調査で、山形地方裁判所鶴岡支部西側の県道部分 153㎡（南北約 33m）が対象範囲です。二の丸大手（正面口）にあたる現在の^{うまだし}荘内神社参道入口に近く、馬出（城門の前を^{どるい}土塁で囲んだ防御施設）とこれに伴う堀が見つかりと予想されました。狭い調査区で地表下 3m 近く掘り下げる必要があったため、長さ 9m 以上の鋼矢板を圧入する仮設土留工事を行なったうえで発掘調査にのぞみました。

厚さ 50cm 前後の表土を重機で除去すると明治時代の整地層が全面に広がり、調査区西辺には当時の土地区画に関連すると思われる石列が南北方向にまっすぐ並んでいました。

この石列と近代整地層を掘り下げたところ、地表下 1m の深さで二の丸大手馬出に伴う堀の上面が確認され、その西側で二の丸堀との間に造られた^{どばし}土橋が発見されました。馬出の堀は南北幅 12.5m 前後で、土橋上面から堀底最深部までの深さは約 2.5m です。堀の南側上層では、馬出の石垣に利用されたと見られる大きな^{きんぼういし}金峯石（地元産の^{かこうがん}花崗岩）が 6 個並んで出土し、廃城に伴う明治 9 年（1876）の埋め戻し時に置かれたと考えられます。急傾斜の南岸には^{らんぐい}乱杭が打ち込まれ、南端に^{どうぎ}胴木（石垣基礎材）と思われる太い横

木が据えられていて、これより奥が馬出とわかります。土橋の堀側にも 2～3 列の角杭・丸太杭を打って護岸とし、裏側に横長の板材を複数段立て重ねて玉石を積み上げる構築方法がとられていました。杭の長さは 30cm 程度から 3m 近くまであり、土橋だけで大小 200 本以上を数えます。これらの杭は一度に打たれたものではなく、崩れた箇所の改修など時期差があるようです。また玉石積みの下に玉石を含まない盛土の高まりと堀の堆積が確認され、土橋本体の構築も大きく 2 時期に分かれることが判明しました。

馬出範囲と調査区北側の下層では、鶴ヶ岡城以前の溝・土坑・柱穴なども見つかり、中世から近代に至る二の丸大手馬出周辺の詳細な変遷を辿ることができそうです。（草野潤平）



二の丸大手馬出に伴う堀（左：上層掘り下げ状況）と土橋（右：検出状況）。写真奥が馬出側（南側）。



土橋の杭列・板材（西から：手前の玉石・盛土は除去）



堀・土橋中央部の東西方向断ち割り断面（北から）

北向遺跡は、JR 仙山線楯山駅の西、楯山小学校の南に展開する古代の集落遺跡です。これまでに県道や市道の建設に伴い発掘調査が行われてきました。それらの調査では、古墳時代の終末から平安時代の前半まで、合計で 70 棟もの竪穴建物が発見されています。立谷川などがつくりだした扇状地の末端に位置する本遺跡は、水辺にも近く、暮らしやすい場所だったのかもしれません。

ところが今回の調査では、1 棟の掘立柱建物跡といくつかの柱穴を検出ただけで、ほかに建物跡はありませんでした。というのも調査区の大部分は旧河川の中にあっただため、建物が建てられる状況ではなかった、あるいは建っていたけれども流されてしまったことが考えられるからです。現在は固定されている川幅も、当時は雨のたびに姿を変える不安定なものだったことでしょう。

建物跡はありませんが、河川跡からはたくさんの遺物が出土しました。それらは奈良時代の中頃から平安時代の前半までの時間幅をもっています。時間幅のある遺物が一か所で出土することから、一気に流されてきて埋まったというよりは、川の岸辺の淀みのような場所に流されてきたものが埋まりきらずにゆっくり

堆積していったのではないかと考えています。

河川が蛇行し、氾濫時以外は陸地化していたと考えられる場所からは、先に述べた掘立柱建物のほか、鍛冶炉や、骨片を含む火を焚いた痕跡、大量に遺物が含まれる土坑などがみつかっています。掘立柱建物跡は、柱穴の大きさから、大型の建物が予想されますが、調査区の端にあり、全容は今回の調査に持ち越されます。骨片を含む痕跡は、それが人なのか動物なのかはわかりませんが、なにかしらの遺体の処理を行っていたと思われます。鍛冶炉などとともに、集落の中心部から離れた、川のほとりでそのような行為を行っていた当時の景観を偲ぶことができます。

(天本昌希)



河川跡の調査風景



調査区全景



鍛冶炉の調査風景

台ノ上遺跡は、米沢市^{あづま}吾妻町地内に所在する縄文時代中期を主体とするの集落跡です。大正11年(1922)にJR米坂線の工事が行われた際に発見されたと伝わります。平成3～17年にかけて各種開発事業に伴い、15次に及ぶ発掘調査が行われています。今年度は、個人住宅建築工事に伴う発掘調査を2箇所(第16・17次)で実施しました。

第16・17次調査区とも竪穴建物(住居)跡は確認されていませんが、土坑や柱穴・ピットが発見されています。特に第17次調査区では、入口より底の面積が広いフラスコ状土坑が13基発見されています。この中には、底面の端に並べられた土器が倒れたような状態

で出土しているものがあります。

遺物は、縄文土器、土製品(土偶・耳飾り・円盤状など)、剥片石器(石鏃・石匙・石鏝・石錐・三脚石器など)、磨製石斧、礫石器(凹石・磨石・敲石・石皿)、石製品(線刻や円孔があるものなど)が出土しています。縄文土器は^{だいぎ}大木7～8型式期を中心に、前期末の大木6型式期のものもわずかに出土しています。

第16・17次調査区は、多数の竪穴建物跡が発見された居住域(第3・4・7・8・10・11次)の西から北西部にあたり、食料の貯蔵や捨て場であった可能性があります。

(佐藤公保)



第16次調査区全景(北から)



第17次調査区全景(東から)



第16次調査 SK1 土坑

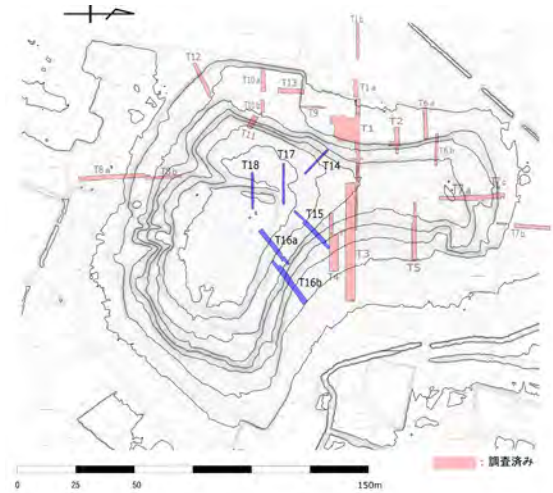


第17次調査 SK4 土坑遺物出土状況(南から)

長岡南森遺跡は、南陽市長岡地区の南森丘陵に位置する古墳時代を主とする遺跡です。

遺跡保護と実態解明のため平成28年に測量調査を行った結果、丘陵南半に城館址を思わせる地形が確認され、さらに丘陵の地形は古墳の可能性も検討すべきものと判断されました。そこで遺跡の性格や内容を把握するため平成30年から確認調査を実施し、第1次～第3次は丘陵北半部、第4次からは丘陵南半部の調査を実施しています。今年度は6つのトレンチを設定し調査を行いました。

T14では、北半部に見られたものと同様の段状地形が検出されました。T15では、古墳時代の焼成土坑が1基検出され、覆土から棒状炭化物や二重口縁土器等が出土しました。T16aでは、土塁状盛土遺構、横堀状の溝跡と柵列が確認されました。頂部は平坦に整地されており古墳時代の柱穴群を検出しました。古墳築造に関わるような盛土は確認されませんでした。T16bでは、大溝跡や段状地形が検出され、覆土から古墳時代の遺物が多量に出土しました。T17では、T16aの溝に接続するとみられる溝跡が確認されました。T18では、古墳時代に遡る土塁状盛土遺構、柵列や堀跡等が確認されました。



長岡南森遺跡トレンチ位置図今年度はT14～T18を調査しました。

出土遺物は、今年度も二重口縁土器や器台等、祭祀に関わる土器が複数出土した他、旧石器時代とみられるナイフ形石器や、尖底土器等の縄文土器が出土しました。

頂部の調査結果から本遺跡は集落的な性格を有し、土塁状盛土遺構・柵列・横堀状の溝・大溝等の遺構が古墳時代に属するか、或はその可能性があることから、一見城館址を思わせる地形は古墳時代に形づくられた可能性がでてきました。柵や溝等で区画された中に建物を有し、祭祀を行った古墳時代の集落的な遺跡であり、稲荷森古墳と密接に関連する重要遺跡と思われます。(斉藤紘輝)



T15で検出された焼成土坑



T16aの丘陵頂で検出された柱穴群

大在家遺跡は高畠町中心部、高畠小学校の南側に位置しています。これまでの調査では飛鳥～平安時代にかけての集落跡と河川跡が見つかり、河川跡からは良好な状態の木製品が数多く出土しています。

今年度実施した国道399号南側の調査区では、^{たてあな}竪穴建物跡8棟、^{こくしよ}掘立柱建物跡2棟、^{どこう}土壇37基、河川跡1条が確認されました。

【竪穴建物跡】一辺6.5m～9m、方形の大型の建物跡が5棟、一辺2.5m～5mの方形ないし長方形を呈するやや小ぶりの建物跡を3棟確認しました。大型の竪穴建物跡4棟では、南側壁面にカマド跡が確認でき、カマド周辺には複数個体の土師器甕が口縁部を下に伏せて配置されています。

【鍛冶関連遺構】鉄滓や羽口片、砥石などの鍛冶関連の遺物が出土する土壇が、河川跡の北側に集中して検出されました。^{すみまる}隅丸長方形の平面形を呈し、垂直に近い角度で掘り込まれ、壁面は繰り返し強い被熱を受けたことが窺える赤変が見られます。いずれも鍛冶関連の木炭焼成坑と考えられます。

【河川跡】出土遺物の年代や流路から、過去の調査と同一の河川跡と考えます。須恵器、土師器、木製品が出土しますが、羽口片や鉄

滓、叩き石、火きり臼など、鍛冶に関連すると思われる遺物が数多く出土しました。

【出土遺物】7世紀後半から9世紀にかけての遺物群で、竪穴建物跡からは^{うちぐろ}内黒土師器が12個体重なって出土し、甕が3個体横倒しで出土しました。また、河川跡からは^{こくしよ}墨書や^{うるし}漆の付着した須恵器が数多く出土しています。大型の^{ばん}盤や^{ぬのめかわら}布目瓦、^{えんめんけん}円面硯など古代の役所跡に関連する遺物の出土も特徴的です。

【まとめ】今回の調査で鍛冶関連遺構がまとまって検出されたことは、組織的な鉄生産を窺わせるもので、周辺に所在したと考える^{ぐんが}郡衙との関連をより強く感じられる成果が得られました。
(水口哲)



SK-19・20 焼成土坑半割状況（南から）



調査区全景（南東から）



ST-5 出土内黒土師器（南東から）

史跡館山城跡は、米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される中世～近世初期の城館跡です。平成28年3月1日付けで国の史跡となりましたが、緊急発掘調査への対応で事業を一時休止しており、令和2年度から発掘調査を再開しています。

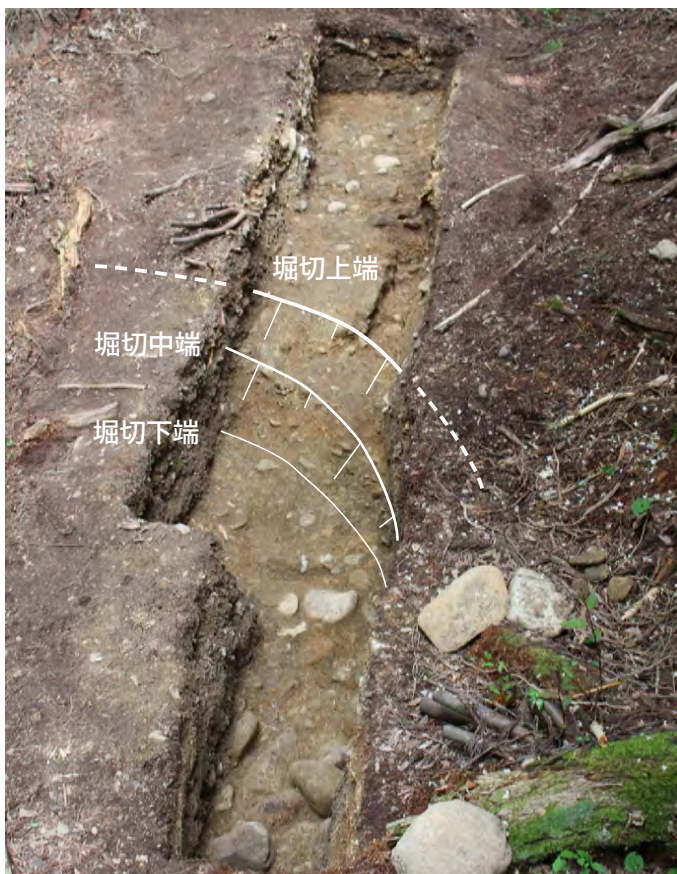
今年度の調査は、曲輪Ⅱ・Ⅲ間堀切の規模及び曲輪Ⅲに所在する塚状遺構の性格を確認することを目的に実施しました。なお、曲輪Ⅲで発掘調査を実施したのは、今年度が初めてとなります。

曲輪Ⅱ・Ⅲ間堀切に設定したF-4区では、堀切の北端部を確認しました。推定される全長は約88m、検出面での上幅は約10m、調査区内での深さは0.7～1.0mです。西側に

接する土塁の天端との高低差は、10m以上あります。また、堀底の断面形が逆台形状となることから、箱堀と考えられます。

曲輪Ⅲの塚状遺構の規模は、高さ約1.1m、径6.7～8.4mの楕円形を呈するものです。ここに設定したG-1・2区では、泥岩の碎石を多量に含む土層が確認されました。泥岩は、本遺跡の地山となっている段丘礫層下部にある岩盤です。堆積状況の検討から、塚状遺構は大正8年（1919）に建設された館山発電所（水力発電）の導水路工事で岩盤を掘削した際に発生した残土山と判断しました。

これまで塚状遺構は、曲輪Ⅲの西側に寺院（館山寺）があったという伝承などから、修法壇など中世の宗教関連遺構の可能性が指摘されていましたが、その様な性格の遺構では無いことが確認されました。（佐藤公保）



F-4区曲輪Ⅱ・Ⅲ間堀切の北端検出状況（西から）



塚状遺構全景（北西から）



G-1区碎石（泥岩）の堆積状況（北西から）

しせきじおんじきゅうけいだい 江戸時代に復興した 史跡慈恩寺旧境内 堂社の佇まい

寒河江市

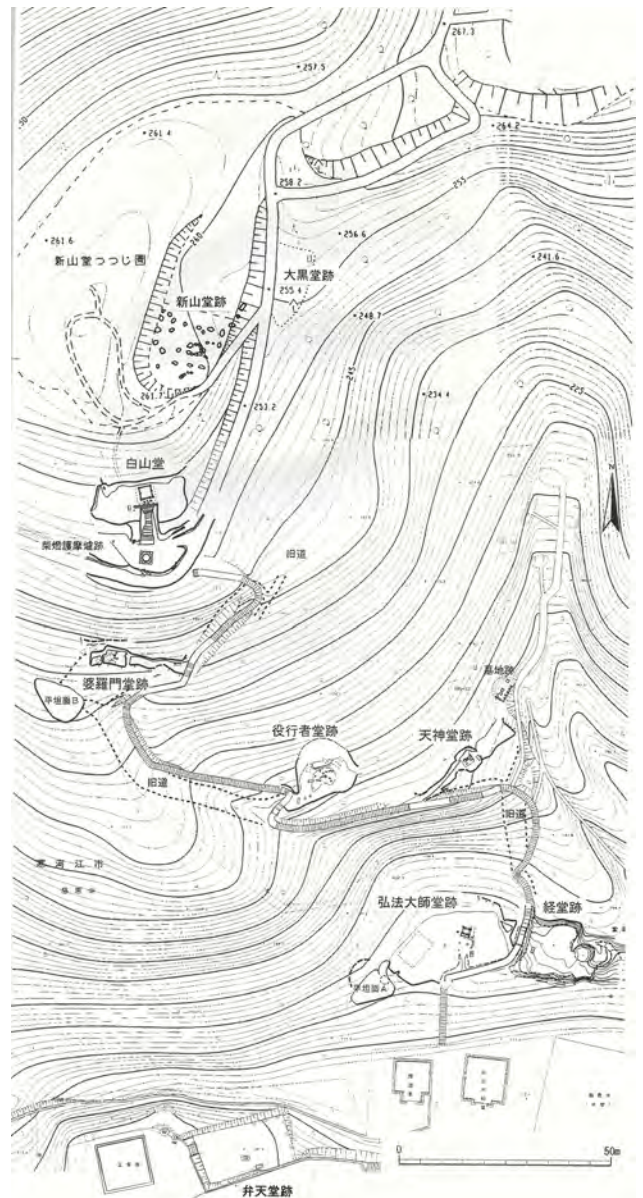
慈恩寺旧境内は、平成 26 年に国史跡に指定になりました。指定理由は、「江戸時代に復興した堂社と院坊屋敷地の佇まい、背景を取り巻く城館と北端の行場が旧境内の様相を良好にとどめており、我が国の仏教信仰を知るうえで極めて重要である」というものです。

指定後、寒河江市教育委員会は『史跡慈恩寺旧境内保存活用計画書』を策定し、史跡の保存活用の整備を、年次計画を立てて取り組んできました。今次の調査は、活用整備の一環として山内堂社跡を紹介する説明板とベンチ設置の基礎部です。調査箇所は、本堂背後の山中に点在する弘法大師堂跡や経堂跡、新山堂跡など全部で 11 ヶ所です。

調査の結果、遺構は確認されませんでした。御堂を建立するため山地を削平し、段地平場が造成されていた有り様が判明しました。

出土遺物は、新山堂跡から寛永通宝と磁器片各 1 点の出土のみでした。

(大宮富善)



堂社跡調査位置図



経堂跡の調査（盛土整地状況が判明）



開山堂跡の調査（地山岩石の崩れ）

本町遺跡の場所には、江戸時代、庄内藩と最上川流域諸藩が米などを保管するために建てた蔵がたくさん並んでいました。江戸時代に建設された蔵は、明治時代まで残っていましたが、明治27年に発生した庄内大地震ですべて焼失してしまい、その後、大正時代には商業学校が建てられ、平成24年まで学校の敷地として利用されていました。

発掘調査の結果、ほとんどの場所では校舎建設工事の際に掘り返されており、江戸時代や明治時代の建物の跡は確認できませんでした。しかし、敷地の南側の一部では、溝や土坑にまとめて捨てられた、江戸末～明治頃の

古い赤瓦が出土しました。また、建物の礎石(柱の基礎部分)と考えられる石も出土しています。これらの遺物から、ここにあった昔の建物の屋根には、赤瓦が葺かれていたことが判明しました。白黒写真だけでは分からない、上本町遺跡における往時の姿の一端が明らかとなりました。
(渡部裕司)



奥に見えるのは山居倉庫、明治26年に建設



溝跡に捨てられた赤瓦。奥にはケヤキの大木



古い赤瓦がまとめて捨てられた土坑



古い礎石。元々あった場所からは動いている

水林下遺跡は遊佐町吹浦字女鹿に隣接し、西に日本海岸に近く、鳥海山の西側に噴出した溶岩台地の上に立地する、3.5 万年前～2.8 万年前の後期旧石器時代前半期、縄文時代中期初頭、平安時代、近世～近現代の遺跡です。第3次調査は、B区とC区東の間の旧石器調査区と、昨年度に表土除去をしたC区北が対象となりました。

旧石器調査区では、第2次調査で確認された第2石器集中部における南側の分布の続きが確認されました。その第2石器集中部の中心東寄りには、石器製作時に生じる数mm～1cm程度のチップ（石くず）が、狭い範囲で集中していました。

今回の調査では、後期旧石器時代前半期特有の珪質頁岩・玉髓製台形石器7点と、昨年度発見の県内初・県内最古の白色風化した北陸産透閃石岩製磨製石斧と同じ石材の石斧調整剥片5点、同じく透閃石岩と思われる緑色の石斧調整剥片1点が発見されました。このほか珪質頁岩・玉髓製石核や剥片、チップが600点以上出土し、第1～2次調査と合わせると、石器資料は1000点以上になります。

C区北の北東角では、縄文時代中期初頭の北陸系縄文土器をともしうフラスコ状土坑が並んで2基確認されました。縄文時代の遺物としては、黒耀石製石鏃が2点発見されました。

C区北の西側と中央では、平安時代の堅穴建物跡が2棟発見されました。2棟とも後世の削平で東半分が失われていましたが、周溝跡や柱穴などの遺構のほか、西側の建物跡の南側に焼土遺構が認められました。平安時代の遺物は、土師器、須恵器、製塩土器などが発見されました。

また、時期不明の焼土遺構2基と柱穴・杭跡や土坑が多数確認されました。

水林下遺跡では、鳥海山西麓においてより古くから断続的なヒトの営みがあったことがわかりました。特に後期旧石器時代の磨製石斧からは、北陸との関連性が認められます。また多量のチップからは、集中的に石器が製作されたことがわかります。石器資料の中には、使用痕と思われる痕跡もあり、今後整理作業において後期旧石器時代の具体的なヒトの活動が明らかになるでしょう。（大場正善）



北陸系縄文土器が出土したフラスコ状土坑



珪質頁岩製台形石器の出土状況



C区北の西側で発見された堅穴建物跡（上が東）

原の内 A 遺跡は、奥羽山地の麓である尾花沢市鶴子に位置し、丹生川左岸の河岸段丘上に立地します。遺跡は、縄文時代中頃(約 5,000 年前)の集落跡で、これまで 3 次に渡る調査が行われ、標高の高い集落跡の南側で、主に竪穴住居跡やフラスコ状の貯蔵穴などが確認されています。今回は、水田の圃場整備の用排水路工事に伴い、集落跡の東端を南北に細長い調査となりました。

調査では、標高の高い調査区南側で、当時の土器や石器を多量に廃棄した谷跡や溝状遺構が発見されました。この谷跡 (SG15) や溝状遺構 (SD6) は、長さ 5 m 以上、幅 5 m 前後で、深さは約 1 ～ 1.5 m の規模で、多量の土器が土圧により潰された状態で、積み重なるように出土しました。

特に谷跡 (SG15) では、土器などの他に、舟形町西の前遺跡の国宝土偶に類似した土偶や、三角濤形土製品など祭祀に関わる遺物も出土し注目されます。

一方、標高の低い調査区北側では、小規模なピットや土坑、風倒木痕が単発的に確認されました。また、調査区南側と北側の中間にあたる調査区中央部では、集落を南北に区切る幅約 20 m の「捨て場」と同時期の川跡 (SG20) が発見されました。

今回の調査の成果としては、特に集落跡の東端に集中する「捨て場」から、縄文時代の「場」の利用方法や、地層のように重なり出土した土器から、細かい土器の形や文様の移り変わりを知ることができる資料が多く得られたことがあげられます。(植松暁彦)



検出状況の調査区近景(南より。奥に烏海山を望む)



SD6 溝状遺構の上層遺物の出土状況 (東より)



SG15 谷跡の遺物出土状況 (北より)



土偶(左)・三角濤形土製品(右) 出土状況(南より)

山形城三の丸跡は、最上義光が整備拡張した近世城郭山形城の一部にあたります。今回の調査は昨年に続いて都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線に伴う調査で、埋蔵文化財センターが行う23回目の調査になります。調査の結果、江戸時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されました。

江戸時代の遺構では、石を組んだ遺構が4基ほど確認されています。井戸や水場遺構、または貯蔵用の地下施設と考えられます。その内、井戸跡は50cmから60cmの大きな石を積み上げ、井戸枠として活用しており、深さは2m60cm程ありました。残念ながら構築された年代は分かりませんでしたが、埋め戻された土の中に江戸時代後期ごろの陶磁器がありましたのでその頃に廃棄されたことが分かります。遺物では江戸時代後期の陶磁器類や瓦が多く見つっています。また、江戸時代初期の九州地方や愛知県で焼かれた陶器が少数ながら見つかりました。三の丸は江戸時代後期になると石高の減少で屋敷地が維持出来なくなり、田畑になっていく部分が多くなるとされています。今回の調査区では江戸時代後期まで屋敷地が残っていたことが分かりました。江戸時代後期の絵図によれば三の丸の東側は大手門から七日町口や横町口、十日町口に至る道沿い

に屋敷地が存在していることが分かります。

古代では、一辺が4mほどの竪穴建物が2棟と、近世の遺構に壊されており全体が分からない竪穴建物が2棟の計4棟が検出されています。いずれの建物からも奈良時代末から平安時代初期の遺物が出土しています。その内一棟の竪穴建物のカマドには袖の芯材として大きな石を設置しているものがみられました。昨年度の調査でも3棟の竪穴建物が見つっています。時期も遺物から同時期のものと考えられます。全体が分かっている建物はいずれも向きをそろえて建てられていますので計画的に配置していたと考えられます。奈良・平安時代の段階で規格性をもった集落形成がこの地域で行われていたと考えられます。

(渡辺和行)



竪穴建物（南から）



石組み井戸（南から）



竪穴建物のカマド芯材の石（西から）

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡 ●●：令和4年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史
BC30000年	旧石器時代	● 水林下 (遊佐町) 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 上屋地 (飯豊町)	太郎水野 (金山町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人
BC11000年	縄文時代	章創期 日向洞窟 (高畠町) 火箱岩洞窟 (高畠町) 大立洞窟 (高畠町)		隆起縄文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	
		早期 にひやく寺 (山形市) 月ノ木B (南陽市)	いるかい (尾花沢市) 赤 石 (村山市)	竪穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる
		前期 高瀬山 (寒河江市) 押 出 (高畠町)	小林 A (東根市) 吹 浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュヨク成立(約6000年)
		中期 ● 台の上 (米沢市) ● 原の内A (尾花沢市) 西ノ前 (舟形町) 水木田 (最上町) 小 反 (鮭川村)	中川原C (新庄市) 西海測 (村山市) 熊ノ前 (山形市) 西 向 (鶴岡市) 山 居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		後期 川 口 (村山市) 小山崎 (遊佐町) かつば (最上町)	砂子田 (天童市) 蔵 台 (酒田市) 町 下 (飯豊町)	竪穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	
		晚期 杉沢C (遊佐町) 作 野 (村山市) 玉 川 (鶴岡市) 宮の前 (村山市)	釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市) 下叶水 (小国町) 蟹 沢 (東根市)	中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんに作られる	模形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2850年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年 300年	弥生時代	百刈田 (南陽市) 上竹野 (大蔵村)	生石2 (酒田市) 堂 森 (米沢市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展	光武帝が匈奴に 金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三国時代(220年)
	古墳時代	● 長岡南森 (南陽市) 畑 田 (鶴岡市) 川前2 (山形市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南 原 (高畠町) 廻り屋 (白鷹町) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋 (川西町) 板橋2 (天童市)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳 (山形市) 土矢倉古墳 (上山市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 高嶺南 (天童市) 嶋 (山形市) 馬洗場B (山形市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつくられる	前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年)
600年	飛鳥時代	● 大在家 (高畠町) 安久津古墳群 (高畠町)	羽山古墳 (高畠町) 双葉町 (山形市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽郡が設けられる(709年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をうつす(710年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)
700年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 双葉町 (山形市) 壇山古窯跡群 (川西町)	牛森古墳 (米沢市) 大和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	出羽郡が建国される(712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年)	東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍
800年	平安時代	● 北向 (山形市) 駒籠橋跡 (大石田町) 馳 上 (米沢市) 山 田 (鶴岡市) 小松原窯 (山形市) 平野山古窯群 (寒河江市) 道 伝 (川西町) 堂の前 (酒田市) 大浦B (米沢市) 上高田 (遊佐町) 古志田東 (米沢市) 今 塚 (山形市) 的 場 (天童市) 清 水 (村山市) 八 反 (東根市)	城輪柵 (酒田市) 懐 田 (酒田市) 八 森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大 坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 興野川原 (鶴岡市) 行司免 (鶴岡市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三 条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 三本木窯 (山形市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年)
1200年	鎌倉時代	上の寺 (寒河江市) 大 樞 (遊佐町) 執行坂窯 (鶴岡市) 八幡一 (川西町)	長 表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)
1400年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 上 野 (鮭川村) 藤島城 (鶴岡市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代 当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される (1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)
1500年	安土・桃山時代	● 山形城 (山形市) ● 館山城 (米沢市) ● 左沢橋山城 (大江町) ● 天童古城 (天童市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 谷地城 (河北町)			東インド会社設立(1602年)
1600年	江戸時代	● 鶴ヶ岡城 (鶴岡市) ● 山形城三の丸 (山形市) ● 慈恩寺旧境内 (寒河江市) ● 上本町 (酒田市) 米沢城 (米沢市)	新庄城 (新庄市) 三 条 (寒河江市) 南 台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく (1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位 (1804年) リンカーンが活躍(1861年)

